

東京ピクニッククラブの皆さんのお話は、天体観望会のあり方を考えるためのヒントがたくさん詰まった、とっても面白い内容でした!

高梨直紘 (東京大学) / 平松正顕 (国立天文台チリ観測所)

先日、東京ピクニッククラブを主宰する太田浩史さん、伊藤香織さんのお話を伺う機会がありました。種子島宇宙芸術祭と六本木天文クラブのコラボレーション企画で、星空の楽しみ方を考えるトークイベントだったのですが、刺激がいっぱいでとっても面白かったです。主催者が言うなという感じもしますが、主催者が楽しくないイベントはしてしようがないから、しょうがない。

簡単に内容をご紹介します。東京ピクニッククラブは、2002年にスタートした活動。主宰の太田さん、伊藤さんがピクニックにはまったところから始まります。曰く、「ピクニックの原形を歴史に探りつつ、多彩なクリエイターのコラボレーションによって、自由で洗練された現代のピクニックの姿を提案する。都市居住者の基本的権利として『ピクニック・ライト』を主張し、社交の場としての都市の緑地や共有スペースの利用可能性を追求

する」とのこと。これって、「ピクニック」を「天体観望会」に置き換えたら、そのまま天文分野に持ってこられるのでは…?

彼らの活動は多岐にわたります。ピクニックができる場所を求めて、様々な公園を訪れるのは序の口。道路の中央分離帯の植え込みや六本木ヒルズ森タワーの屋上(!)など、新しい可能性を求めてさまざまな場所にチャレンジします。ピクニックの持つ社交の力を引き出すべく、カラフルなカーテンをラグに使ったり、おしゃれなピクニックセットを用意したり、手軽でおいしいピクニック料理を追究したりと、あの手この手でピクニックを演出していて、とにかく楽しそう!

特に私たちが学ぶべきと思うのは、場のデザインを強く意識している点です。例えば、15箇条からなる「ピクニックの心得」(ウェブに公開されてます!)などは、彼らの考えるピクニックのあり方を示したのですが、これのおかげでどうい



あっという間の2時間半でした。

ルールの下で遊べば良いのかが分かります。五七五の縛りがあるからこそ俳句の宇宙が開けているように、ピクニックの豊かな世界を生み出すための仕掛けが用意されているのです。

天体観望会と言えば、望遠鏡を使って星を見せることが一般的。しかし、それに縛られ過ぎることで、もっと違った星空の楽しみ方を見落としているのかもしれない。本来、それこそが天プラの得意技。この気持ちを忘れずに、新しい星空の遊び方を提案していきたいと思います!

東京ピクニッククラブ

<http://www.picnicclub.org/>